

第 71 回明石市環境審議会における意見

◎次期計画策定に関する意見

No	意見の概要	事務局または会長コメント
■全体について		
1	<p>SDGs との関連では、ウエディングケーキモデルがわかりやすい。経済・社会を成り立たせているのは環境という考え方。</p> <p>次期計画でも、その点を明記すれば、市民にも伝わりやすい。SDGs の課題がたくさんあって、何から始めたらよいかわからない人も、ベースとなる環境の課題から取り組んでいけばよいということが伝わるのではないか。</p>	<p>環境基本計画なので、あくまで環境がベースとなるが、社会・経済との関係（バランス）をどのように記載するのかは、検討が必要。</p> <p>例えば、経済の中に、環境が含まれているという議論もあるなど、社会や経済との関係については、さまざまな議論があるので、SDGs 審議会での議論との整合も含めて、考えていく必要がある。</p>
2	<p>現行計画期間における主な取り組みの評価について、目標より進んでいるもしくは進んでいない取組の割合について、年度ごとに目標を定めることはどうか。</p>	<p>年度ごとに割合について目標を定めるということは難しいが、個別計画の改定の中で、それぞれの取り組みについてどうしていくべきかの整理は必要と考えている。</p>
3	<p>現行計画の進捗や課題が大まかに示されているが、もう少し丁寧にまとめ上げる予定はあるか。単に取り組み数だけの評価ではなく、それぞれの取り組みの何がうまくいっていないのか、もう少しきちんと整理することが、次期計画の議論の土台として必要と考える。</p>	<p>個別の施策については、個別計画で定めている施策となり、その個々の評価は毎年行い、環境レポート等で集約しているところ。</p> <p>基本計画は、個別計画の理念を取りまとめる計画となっており、個別計画を見直していく際の大きな方針を決めていきたい。</p>
4	<p>海洋プラスチックごみ問題について、市内でもごみのポイ捨てが多く、海が汚れている状況が見られる。海洋プラスチックごみは、生態系への影響も懸念される所。</p> <p>海に面している明石だからこそ、この問題の解決を計画の戦略とし、施策を進めてほしい。</p>	<p>検討していく必要がある。</p>
■低炭素社会の実現について		
5	<p>脱炭素社会の実現に向け、取り組みを強化とあるが、そのためには 2030 年度の温室効果ガス削減目標を見直す必要がある。現在の 26.5% 削減目標では、2050 年ゼロに到達することは無理である。</p> <p>また、現実的にできることだけを積み上げる方法では、2050 年ゼロは難しい。国も 46% 削減目標を掲げているなか、明石市としても覚悟を示す必要がある。</p>	<p>2030 年の削減目標については、上位計画の SDGs 推進前期戦略計画においても、数値の見直しを検討しようとしているところ。</p> <p>環境部局としても、具体の数字は、施策をしっかり積み上げていく必要もあるので、国等の動向も踏まえ、適切な時期に審議会でご議論いただきたい。</p>

6	<p>再生可能エネルギーの導入について、これまで住宅用太陽光の補助やメガソーラーの設置を進めてきているが、役所や学校など、空いている屋根のスペースはまだあり、今後、そのような施設へ太陽光を導入していくことも計画の方向性として入れてほしい。</p> <p>特に、避難所となっている公共施設へ再エネを導入すると、災害時に自家発電できるので、災害対応の観点からもメリットがある。</p>	
7	<p>2030年までたった9年しかない。2050年ゼロにすることから逆算したら、2030年には半減くらいできていないといけないのではないか。</p>	
<p>■自然共生社会の実現</p>		
8	<p>2020年は、愛知ターゲットの目標年であったが、目標が達成されていないという最終評価の報告がされている。生物多様性の分野については、神戸市と連携した取り組みなど、さまざまな取り組みを実施しているところであるが、さらに戦略的に進めていく必要がある。</p>	
9	<p>市内の緑被率や田畑は減少しており、緑は少なくなっていると認識。さらに最近では、工場の緑地率の緩和や、大久保北部市有地での土砂の受け入れなどの話がある。そのような状況で、仮に一部の緑が減る方向になるとしても、明石全体ではバランスを保ち、緑を増やしていかないといけない。</p> <p>世界ではグリーンリカバリーという考え方が主流である。環境基本計画は、環境を守りながら、持続可能なまちづくりを可能にするための抑止力となる、効力を持つ計画となるべき。</p>	<p>経済活動と環境をどのように同時に両立させていくのか、腹を決めなければいけない部分もあるが、次期計画では、その考え方を含め、ドラスティックに変えていく必要がある。</p>
10	<p>明石にとって、海を大切にすることは、市民の環境意識向上のための基本となるはずであり、ぜひ入れていただきたい。</p>	
<p>■循環型社会の実現</p>		
11	<p>一人一日当たりのごみの量は減少傾向だが、全体の排出量は横ばいとのこと。明石市の人口が増加していることも踏まえると、一人あたり排出量は減少しても、全体の排出量としては減少していかないということも考えられる。目標については、人口増加も考慮したうえで、一人一人の取り組みが効果としてあらわれる指標を設定することがよい。</p>	

■安全安心社会の実現		
12	近年は、温暖化に起因する異常気象が近年頻発しており、この分野は、気候変動の適応策との関連も明記していく必要がある。	
13	環境基本計画で、施策分野の一つの柱となっている安全・安心社会の実現が、あかし SDGs 推進前期戦略計画の方向性には含まれていないがなぜか。	<p>○安全・安心社会の実現の位置づけがない点については、あくまであかし SDGs 推進前期戦略計画の中での整理であり、環境基本計画でどうするかは、次回骨子案で示したい。</p> <p>○上位計画に細かに縛られる必要はないと考える。個別計画となる環境基本計画は、より高い目標を掲げたり、施策の方向性を変えることはあってよい。むしろ上位計画の文言をそのまま踏襲することは避けた方がよい。</p>

◎現行計画の取り組みに関する意見

No	意見の概要	事務局または会長からのコメント
■低炭素社会の実現		
1	昨年表明した気候非常事態宣言に基づく啓発は、どのように取り組んできたか。また、今後どのように取り組んでいくか。	エコウイングあかしと協働で、環境フェアなどでこれまで啓発活動を行ってきたところ。また、宣言に関する周知啓発は、ホームページなどを通じて実施してきた。今後は、昨年度末に作成した啓発パネルを活用して、コロナの状況も見据えながら、実施予定。
2	クリーンセンターのメガソーラーで発電した電気を市で使うなど、今後、地産地消の仕組みにつなげる方向性を打ち出してほしい。また、新庁舎においても、地域のモデルとなるよう省エネや再エネの導入を積極的に進めるべきと思うが、計画あるか。	新庁舎については、太陽光を導入する計画があるが、現時点ではどの規模になるかなどの詳細は未定。
■循環型社会の実現		
3	できるだけ費用をかけずに市民へ PR する方法についての提案だが、市民に配布されているごみカレンダーには、分別の方法くらいしか記載がなく、そこに例えば、分別の効果がどのくらいなのか、その数値などもあわせて記載すれば、目標に向けて取り組んでいることが市民全体に伝わるのではないか。カレンダーの作成の際には、協力するので、声をかけてほしい。	
4	食品ロス削減対策について。食品ロスを半減させましょうという話はよく聞くが、アイデアがあると、市民に一層分かり易く伝わる。広報誌でちょっとしたアイデアをのせるとか、周知の機会を作ってほしい。	さきほどご提案のあったごみカレンダーなどとのコラボもよいかもしれない。

